
平成24年度予算第二特別委員会質問要旨

局別審査

平成24年3月2日

質問者（質問順）

- 1 石 渡 由紀夫 委 員 (民主党)
- 2 高 橋 正 治 委 員 (公明党)
- 3 木 下 義 裕 委 員 (みんな)
- 4 岩 崎 ひろし 委 員 (共産党)
- 5 興 石 且 子 委 員 (自民党)

水 道 局

局 別 審 査

1 石 渡 由紀夫 委員（民主党）

1 平成24年度水道事業会計予算について

- (1) 予算編成上の視点について伺いたい。
- (2) 予算の主な特徴点や特に力を入れた点は何か。
- (3) 老朽管更新のため修繕費等が大幅に増となる理由は何か。
- (4) 水道料金収入が減少する中での健全経営維持の考え方について伺いたい。

2 老朽管更新について

- (1) 老朽管更新実績についての評価を伺いたい。
- (2) 24年度の更新計画110キロメートルの設定理由は何か。
- (3) 送・配水管の種類と耐用年数はどのくらいか。
- (4) 昭和40年代に敷設した管路の更新時期が集中することへの対応について伺いたい。
- (5) 老朽管更新のコストダウンについての考え方を伺いたい。

3 海外水ビジネスについて

- (1) 海外水ビジネスにおける本市の方向性及び到達目標はどうか。
- (2) 横浜ウォーター株式会社の海外水ビジネス展開の対象国はどこか。
- (3) 横浜ウォーター株式会社は、海外の水道事業運営において大きな収入をあげていくことが期待されていることについての局長の意気込みを伺いたい。
- (4) 海外水ビジネス展開にあたり想定されるリスクと対応の方向性について伺いたい。
- (5) 事業成功のためには、民間商社やJICAとの連携が必要だが、どのように考えているのか伺いたい。

4 はまっ子どうし The Waterについて

- (1) 24年度の「はまっ子どうし The Water」の販売予定本数と収支状況はどのくらいか。
- (2) プロモーション目的ということも踏まえ、赤字か黒字が判断できる指標を示すべきと思うがどうか。

5 人材育成と技術継承について

- (1) 技術力を低下させないための施策について伺いたい。
- (2) 人材獲得のための取組について伺いたい。

2 高橋正治委員（公明党）

1 道志水源林の保全について

- (1) ボランティアが民有林を整備する目的は何か。
- (2) ボランティア活動への参加者が減少している理由は何か。
- (3) 民有林の水源かん養機能を向上させるためのボランティア事業活性化についての考え方を伺いたい。
- (4) 水源保全の重要性を広めていくためには、ボランティア事業に限らず、市民や次世代の子供たちに水源林の保全の大切さを広めることが重要と考えるがどうか。

2 メーター下流側漏水修繕について

- (1) 市民が工事事業者に依頼して修繕を行う際に、困る点について伺いたい。
- (2) 工事事業者に関するトラブルや苦情件数はどのくらいか。
- (3) これらのトラブルや苦情への対応について伺いたい。
- (4) これらのトラブルや苦情をなくすための対応についての考え方を伺いたい。

3 障害者施設への水道メーター分解委託について

- (1) この事業の基本的な考え方は何か。
- (2) 作業委託の具体的内容はどのようなものか。
- (3) この事業による収入増はどのくらいか。

4 老朽管更新について

- (1) 現在の老朽管更新計画の内容はどのようなものか。
- (2) 老朽管更新の優先順位の考え方について伺いたい。
- (3) 24年度からの中期経営計画で更新する主な老朽管の種類と延長について伺いたい。
- (4) 送・配水管におけるダウンサイジングの取組と実績について伺いたい。

5 今後の基幹施設の整備について

- (1) 東日本大震災を受け、災害時や停電時でも安定的な給水を可能とするための水道システムの整備の考え方について伺いたい。
 - (2) 大規模地震にも機能を確保するための基幹施設の耐震化の実績と中期経営計画の目標について伺いたい。
 - (3) 安定給水を確保するためのバックアップの根幹となる環状ネットワークの整備状況について伺いたい。
 - (4) 環境未来都市として、基幹施設の整備を進めるうえでの環境への配慮についての考え方を伺いたい。
- (要望)災害に備えた施設の耐震化やバックアップ用管路の整備を進めるとともに、環境に配慮した水道システムを構築していただくよう要望します。

6 東日本大震災の被災者・被災地に対する支援について

- (1) 被災地復旧・復興支援の取組内容について伺いたい。
- (2) 横浜ウォーター株式会社が受託した国土交通省復興支援調査業務の取組内容について伺いたい。
- (3) 東日本大震災発災後、本市に避難された被災者に対しての支援はどのようなものか。
- (4) 被災者に対する減免の予定期間はどのくらいか。

7 横浜ウォーター株式会社について

- (1) 横浜ウォーター株式会社の国内他事業体等の業務受託に向けた取組状況について伺いたい。
- (2) 海外水ビジネスを展開する上で、横浜市水道局が持つ技術的な強みは何か。
- (3) 横浜ウォーター株式会社の現状における課題についての認識はどうか。
- (4) 技術・ノウハウを社会貢献・国際貢献に生かすという観点での、今後の横浜ウォーター株式会社の事業展開に対する期待について伺いたい。

8 技術の継承について

- (1) 局が目指す技術職員とは何か。
- (2) 局が取り組んでいるマスターエンジニア制度の内容とマスターエンジニアの割合はどれくらいか。
- (3) マスターエンジニア制度の課題は何か。
- (4) マスターエンジニア制度の課題の解決方法について伺いたい。
- (5) マスターエンジニア制度の今後の展開についての考え方はどうか。
- (6) 技術継承の手法としてマスターエンジニアのような制度を横浜市として水平展開できないのか。

9 持続可能な水道事業運営について

- (1) 将来の人口減少社会を踏まえ、持続可能な水道事業経営に向けた展望について伺いたい。

1 経営努力について

- (1) 料金収入の減少傾向が続く中での次期中期経営計画における財源確保の考え方について伺いたい。
- (2) 純利益の一部を市民への還元として水道料金の引下げに充てられないのか。
(要望) 22年度、23年度と経常利益は順調であり、引き続き、市民に利益を還元する方法を検討していただくよう要望します。
- (3) 次期中期経営計画では市内プールの廃止等に伴う水道料金収入の減少を見込んでいるのか。
- (4) 職員、再任用職員、嘱託員数の23年度と24年度の比較について伺いたい。
- (5) 27年度の再任用職員と嘱託員数、及び総職員数に対する再任用職員と嘱託員数の割合の27年度と23年度の比較をするとどうか。
- (6) 水道使用量減を考慮に入れた総職員数の管理の基本的な考え方について伺いたい。
- (7) 最適な職員総数は何人と考えているのか。
(要望) この人数がいれば本市水道事業を運営できるという絶対的な仕事量の提示を要望します。

2 数値目標といえる指標について

- (1) 本市が考える「安全でおいしい水」の指標とは何か。また、市民にどのように伝えているのか。
- (2) 本市では、水道事業の経営指標を市民にどのように伝えていこうと考えているのか。また、水質に関する指標を合わせて水道局ホームページに掲載する考えはあるのか。
- (3) 東京都水道局と比べ、職員一人当りの給水件数等数値が少ない項目もある。本市としてはどのように一人当りの仕事量及び効率を高めていくのか。

3 神奈川県内広域水道企業団との関係について

- (1) 24年度予算で企業団受水費が増加している理由について伺いたい。
- (2) 今後の企業団受水量の見通しはどうか。

4 資産の有効活用について

- (1) 24年度財政局の新規事業「横浜市公共建築物マネジメント白書（仮称）」の対象に水道局を含めるのか、水道局が同様の内容を公表すべきと考えるがどうか。

5 中村町事務所について

- (1) 中村町事務所の再整備に係る総建設費と総工事費はどのくらいか。
- (2) 中部第二給水維持課庁舎を中村町事務所に移転する必要性はあるのか。
- (3) 中村町事務所への移転後の人員と人員体制の考え方について伺いたい。
- (4) 工事単価が高額のため縮減すべき。また、菊名ウォータープラザと同様なものを建設するのか。

6 資産の棚卸しについて

- (1) 年利5%未満の企業債の積極的な返済についての見解を伺いたい。
- (2) 23年度末144億円の累積資金残高を活用して100億円の企業債発行と年間2億円の支払利息を圧縮すべきと考えるがどうか。
- (3) 「永久企業債」発行などの検討状況はどうか。

7 その他

- (1) 市長部局は全体を挙げて行革に取り組む中、水道局にも同等以上の行革の仕組み、成果が求められるべきと思うがどうか。
- (2) 水道局は、改善型公営企業にはならないのか。

4 岩 崎 ひろし 委員（共産党）

1 再生可能エネルギーについて

- (1) 水道事業として、今までに取り組んできた内容について伺いたい。
- (2) 水道事業が有する「再生可能エネルギー資源」の潜在的可能性をどうとらえているか。
- (3) これらの取組の今後の方向性について伺いたい。

1 水道事業の予算概要について

- (1) 24年度に取り組む事業見直しの概要と効果額はどうか。
- (2) 次期中期経営計画における事業見直しによる経費削減の取組について伺いたい。
- (要望) 市内企業の工事受注機会を増やし、経済の活性化を図るよう要望します。
- (3) 24年度の新たな、検針・料金整理業務の一括委託化による、縮減効果はどうか。
- (4) 水道料金の支払い方法による経費の差はいくらか。
- (5) 現在の水道料金の支払い方法別の割合とその推移について伺いたい。
- (6) 24年度に実施する口座振替・クレジットカード払い促進キャンペーンの取組内容と縮減効果の見込み額はどのくらいか。

2 災害対策について

- (1) 311で得た教訓について
 - ア 大規模災害が発生した際の水道の役割について局長の認識を伺いたい。
 - イ 地震直後、いつからどのような支援活動を行ってきたのか。
 - ウ 支援活動を通じて得た教訓と施策に活かされたものがあるのか。
- (要望) 災害現場で得られた体験を踏まえ、給水車の購入を検討していただきたい。
また、大口径管についても早期復旧に繋がることから、材料の備蓄を要望します。
- (2) 自助と共助について
 - ア 家庭や職場における水の備蓄に関する意識の実態について伺いたい。
 - イ 水の備蓄の実態を踏まえた、家庭や職場における水道局の備蓄促進に向けた工夫や取組について伺いたい。
 - ウ 地域における共助の要となる、応急給水拠点の市民の認識とその評価について伺いたい。
 - エ 個人の備蓄以外で水が供給される方法について、その種類と運用方法につ

いて伺いたい。

オ 水道に関する共助の意識喚起に対する水道局としての今後の取組について伺いたい。

(要望) 今後もインターネットを活用した広報や地域防災拠点での訓練をお願いします。

(3) 公助について

ア 地域サービスセンターと給水維持課の災害発生時における連携と機能はどうか。

イ 西谷浄水場と水道局本庁舎との間をはじめ、通信網については2重3重の備えが必要と考えるが、どのような対策をとっていくのか。

ウ 市内外の水道局の各事業所などにおける通信網確保のための非常用電源の配備状況について伺いたい。

エ 災害時に市災害対策本部の一員として機能するほか、他都市との連絡調整の拠点ともなる、水道局本庁舎への非常用電源の配備状況を伺いたい。

(要望) 危機管理体制を充実させるために、情報通信の基盤の確立を早急に進めていただくことを要望します。

オ 東日本大震災の教訓を踏まえた水道の業務継続の推進に関する局長の意気込みを伺いたい。

3 職員のモチベーションアップや意識改革につながる取組について

(1) 職員のモチベーションアップや意識改革につながる取組について伺いたい。

(2) 業務改善実績の推移について伺いたい。

(3) 「はまピョンカップ」の役割について伺いたい。

(4) 研究開発の局内体制について伺いたい。

(5) 研究開発の主たるテーマについて伺いたい。

(6) 研究開発から生まれた特許件数と収入について伺いたい。

4 水源環境等の保全と環境教育について

(1) 水源環境を守るため、道志村で実施している生活排水処理事業の実績や効果

はどうか。

(2) W-e-c-o-pの目的について伺いたい。

(3) W-e-c-o-pの現在の状況について伺いたい。

(要望) 多くの企業や団体に呼びかけ、事業を広めていくよう要望します。

(4) 「WATER HERO」の目的は何か。

(5) 「WATER HERO」の23年度に実施したプログラムについて伺いたい。

(6) 「WATER HERO」への今後の期待について伺いたい。

5 水道技術国際シンポジウムについて

(1) 水道技術国際シンポジウムとはどういうものか。

(2) 今回の水道技術国際シンポジウムのテーマと内容は何か。

(3) 水道技術国際シンポジウムを横浜で開催するにあたり期待される効果について伺いたい。